

■学位論文内容要旨

日本における発達障がいをもつCLD児の教育支援に関する研究 ——X特別支援学校を事例として——

ゴンザレス アチョン ファリ ヨウコ (2020年度修了)

I. はじめに

本研究は、日本の特別支援学校に通う発達障がいをもつCLD児 (Culturally and Linguistically Diverse Children) の教育支援に関する研究である。

日本において、CLD児を対象とした研究や、発達障がい児を対象とした研究はこれまでに多く蓄積されている。一方で、言語と障がいという二重に困難を抱える児童を対象とした研究は十分とは言えない。現場においても、CLD児の教育に関わる支援者からは、CLD児の困難が発達障がいに基づくものであるのか、言語能力によるものなのか、また文化の相違、文化間移動によるストレス、家庭環境や社会環境によるもののかなどの見極めが難しいという意見が多く聞かれる (渋谷, 2019)。

このような問題を踏まえ本研究では、事例研究を通じて、特別支援学校におけるCLD児の教育支援をめぐる実態と教師が検討すべき教育支援の課題を明らかにすることを目的とした。

研究方法として、まずは先行研究の検討を通じて、①現在、日本の特別支援学校においてCLD児がどのように位置づけられ、どのような問題に直面しているのかを検討し、②主にアメリカ及びカナダの多文化教育に関する研究や実践から、日本の特別支援学校において実施されているCLD児に対する教育支援を分析する基本的な視点を整理した。さらに、事例として、X特別支援学校小学2年生のスペイン語を母語とする男子児童2名 (L君, K君) を対象として取り上げ、「保護者及び教師への半構造化インタビュー」、「授業の参与観察」を行った。対象となったL君とK君はともに自閉症と診断されており、療育手帳の知的障害の判定区分はAである。

II. 第1章「日本における特別支援学校の現状と課題」

この章では、日本の特別支援教育の変遷と概念及び、日本の特別支援教育の特別支援学校の課題について検討した。

まず、「特殊教育」から「特別支援教育」への変容は、教育課程、子どもの捉え方、子どもを取り巻く環境の変化、教育支援のあり方などに現れている。教育支援は、子どもの障がいではなく、子どもの特別なニーズに着目し、この特別支援教育を提供するために多様な学びの場がある。本研究では特別支援学校に着目し、この章では教育課程、個別的教育支援計画と個別の指導計画、特別支援学校に在籍している児童生徒の状況についてレビューした。そして、日本の特別支援教育の課題が①日本のインクルーシブ教育のあり方における矛盾、②教師不足、③教師による指導の難しさ、④保護者と教師の関係、⑤特別支援学校で増加しているCLD児のニーズを対応することの難しさであることを明らかにした。

III. 第2章「多文化教育及び特別支援教育における教育支援のあり方」

この章では、特別支援教育と多文化教育の観点からの教育支援の考慮事項を明らかにした。多文化教育の観点からは以下のことが明らかにされた。①第二言語の学習の欠乏からではなく、文化的および言語的な多様性から子どもたちを捉えることが重要である。②教師は、授業における多様性とそれが子どもたちの学習スタイルに影

響することを認識するべきである。③学校は、両親との様々な方法のコミュニケーションを工夫し、家庭と学校の間にリンクを作成することを保証する必要がある。

特別支援教育の視点からは以下のことが明らかにされた。①「機能的多様性」の観点から障害を理解することが重要である。②子どもたちが教師や仲間とのコミュニケーション的関係を形成できる機会を促進する必要がある。③教師は協同的な教育を計画する必要がある。④心理的および仕事上の負荷を考慮して親を理解することが重要である。

IV. 第3章「X特別支援学校におけるCLD児の教育支援」

この章では、CLD児の教育支援をめぐる実態及びCLD児の教育支援における課題と効果的な教育支援について検討し、考察した。

まず、X特別支援学校の特徴とL君とK君の特徴について概説した。対象となる二人は二重の文化的言語環境で育ち、自宅では家族とスペイン語で会話をし、スペイン語圏文化で生活している。また、自閉症であるため、どちらもコミュニケーションと対人関係の確立が困難であり、とりわけ彼らが学校で遭遇する困難は①言語、②文化、そして③障がいの三つの領域が組み合わせられたものであった。

さらに、本章では教師や保護者へのインタビューや授業の参与観察に基づいて、①言語の理解不足によって引き起こされる困難、②文化的な違いによる困難、③自閉症によって引き起こされる困難に関わる教師の課題意識及び教育支援の実態について明らかにした。さらに、保護者の認識を分析し、CLD児に対しての課題及びCLD児のための教育支援を実施する際に教師が配慮すべき課題を明らかにした。

V. おわりに

本研究では特別支援学校におけるCLD児の教育支援をめぐる実態と教師が検討すべき教育支援の課題につい

て以下のことが明らかとなった。

- 1) CLD児の抱える困難は複合的であり、CLD児の具体的なニーズに応えるための教育支援を考案することが難しい。
- 2) 子どもの母語に関する情報・知識がないことが原因で教師とCLD児の間のコミュニケーションにおいて困難が見受けられる。さらに、自閉症によるコミュニケーションの困難さもあり、より大きな課題となっている。
- 3) 教材の捉え方について、教師と子どもの間に文化的な「ズレ」があることが確認され、教師にとっては子どもの文化に関する知識や経験がないことから、その「ズレ」を具体的に特定して対応することが難しい。
- 4) 教師によっては、障がいの捉え方について医療モデルに影響された考え方は指導モデルや教材の作成に反映されている。また、子どもの興味や関心とかけ離れたところで指導モデルや教材が用意されていくことが考えられ、さらに教師と子どもの大きな「ズレ」となっていくことが考えられる。
- 5) 文化的、言語的な違いから、保護者は福祉サービスや子育て支援、学校教育に関するリソースや社会システムへのアクセスが困難となっている。同様に、教師とのコミュニケーションが難しい。また、特別支援学校で行われている教育支援と保護者が持っている期待との間の「ズレ」も存在している。

以上のCLD児の教育支援をめぐる実態に対して、特別支援学校においてCLD児のための教育支援を実施する際に教師が配慮すべき課題として次の5点が導出された。

- 1) 子どもの具体的なニーズが明確にされるためには、バイリンガルのアセスメントが実施される必要がある。その中で、子どもが持つ文化の違いや学習の状況、同級生との関係、様々な人たちとの関わり方、アセスメントが行われる環境など、子どもの教育のプロセスに影響を与える様々な要因が考慮されることが求められる。
- 2) 例え教師がCLD児の母語についての知識がなくとも、CLD児とのコミュニケーション的関係を築いていくことができる。このコミュニケーション的関係が子

子どもとの信頼関係につながり、教師が新しい環境における子どもの感情面での「安全基地」となっていく。他方、CLD児の母語による教育支援も用意される必要がある。

- 3) 教師は、教材の作成にあたって、子ども達の文化に対する柔軟な姿勢が求められる。加えて、学校は子どもの母語や文化が分かるスタッフを配置し、教師と一緒に教材を開発することを目指していくことが求められる。
- 4) 教師が実施することができる支援において検討すべき課題として、次のことが明らかとなった。第一に、教師が自分自身の障がいの捉え方についての問い直しが必要である。第二に、教材に関する子どもと教師の間のズレによって生じる問題を減らすための3つのポイントが導出された。①教師間で指導モデルや子どもの反応、改善のための提案などに関する自己分析と議論を行うことである。②具体的な教育支援について、子どもが抱える障がいに起因する困難を念頭に置いて考案することである。③K君の事例から、友達の泣き声に対するCLD児の敏感さに対しては、子どもの視点に立って教材や指導モデルを工夫して子どもの興味を刺激することである。不快感の原因となっている状況から子どもを遠ざけることも重要である。さらに教師たちは、協同体制を組み、効率的かつ戦略的にそれぞれの役割を決めておくことも重要である。
- 5) 保護者に対するコミュニケーション的支援については、学校は資格がある通訳者のサポートを受けながら保護者への情報発信をしていくことが必要である。

また、教師は保護者との面談の時間をより頻繁にもつ必要があり、同時に保護者のエンパワーメントを図りながら彼らと協力的に取り組んでいくことが重要である。加えて、学校は、保護者が子育てに関して相談ができたり、精神的なサポートを受けられる様なスペースを設けることも必要になると考えられる。

VI. 今後の課題

本研究では、特別支援学校の授業における効果的な教育支援を行うための様々な検討課題が提案された。しかしながら、これらの教育支援の効果については実証されていない。さらに本研究では、特別支援学校に在籍するCLD児への教育支援を行う上で教師が配慮すべき課題について具体化、一般化できていない。これらが今後の研究課題として残されている。

付 記

本研究は愛知県立大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施された（令和1年2月20日）

主な参考文献

- 大宮ともこ（2005）『コミュニケーションの関係がひらく障害児教育』青木書店。
- Gargiulo, R. (2009)『Special Education in Contemporary Society. An introduction to exceptionality』, SAGE Publications.
- Winzer, M. & Mazurek, K. (1998)『Special Education in Multicultural Contexts』, Merrill.